

東日本大震災義援金カンパご協力の御礼

この度の東日本大震災に対する義援金カンパにつきましては、会員の皆様にご賛同を頂き、募金箱を設置したり、昼食時の食事代の現金をご提供頂くなどいたしました。皆様のおかげで支援頂いた結果、七月二日まで一万九千七百円が集まり、「東日本大震災チャリティ・コンサート」の代表であり、AAFCの会員でもある芹沢様の方へ私より手渡し致しました。

皆様のご協力本当に有り難うございました。この紙面をお借りして、私からも御礼申しあげます。

尚、芹沢様よりAAFC会員の皆様および会長宛に左記のようなお礼のお言葉をメールにより頂きましたので、ご披露いたします。どうかご覧ください。

会長

第五回 『平和のための市民コンサート』
我孫子』の大きな賛助に対する御礼

記

昨日は、お忙しい中、佐藤会長にお出で頂き、又会の有志の皆様からの大きな金額のカンパ金を頂戴いたしました。本当に有り難う御座いました。

総額で二〇万円程が集まりましたので、我孫子市と郡山市に一〇万円づつ送金します。その一割がわがAAFCの皆様からの浄財です。心から感謝いたします。

佐藤様、この度は本当に有り難うございました。AAFCの皆様にも、私の心からの感謝の気持ちを、どうぞよろしくお伝えください。お願いいたします。

このコンサートが終わりましたので、一段落します。月に二回の定例会に、一回だけでも参加したいと思います。

次の私の当番が楽しみにしました。

芹沢 正子

『オーディオと私』

我孫子市台田に住んでいた頃、この会に参加しました。一応、オリジナルメンバーですが、ここ数年は事情により中国に暮らすことが多くなり、現在は休会中です。

子供の頃から音楽が好きで、運動会の行進曲などは特にお気に入りでした。

ただ、昭和三十年代の日本はまだ貧しく、電器もステレオも一般家庭にはそれほど普及してはいませんでした。

初めてレコードを買ったのは小学校高学年になってからで、それでも装置がないため、レコードだけ買って満足していたような状態でした。その頃、好きな曲はラジオから流れる英米のポピュラーヒットが中心でした。

初めてステレオを買ったのは、学校を終えて就職してからです。

時代は七十年代で、その頃はコンポ・ステレオが全盛でした。私もカネはありませんが、永年の夢であったステレオ購入を決心しました。

ソニーのアンプとチューナー、それにヘッドフォンをやっとの思いで揃えました。

FM放送をヘッドフォンで聴く音楽は夢のように美しく、心から感動しました。

あの頃の、夢ときめく想いは、オーディオに魅せられた遠い日の思い出です。

次に、テクニクスのプレーヤーとグレースのカートリッジを買い、「レコードを聴く」という夢が叶い、それは大変な感激でした。

この頃はマイルスやコルトレーンなど、五十年代後期のジャズをよく聴いたものです。

最後に、スピーカーは勤務先のマニアの薦めでタンノイⅢLZを購入しました。

このスピーカーの音は比類のない美しさで、いまだに私の愛機となっています。

ⅢLZと聴き比べた国産のスピーカーは、クシャクシャの音で、しかも「音楽が散らばって出てくる」という恐るべき事実を前に、本当に驚いてしまったものです。

当時の日本のスピーカーは完全に英国製より劣っている、と思い知った瞬間です。

その後、「ステレオサウンド」などの雑誌に影響を受け、デザインや性能の良い高級機に魅せられ、ムリにムリを重ねて購入、さらに

魅力的な機器が現れると、又々濫費を覚悟する、という誰でも罹患する甘美なドロ沼に陥りました。評論家という名の電気屋の宣伝員に振り回されていた、と今では苦笑しています。

二十四歳でマッキントッシュを買って、クレジット返済に食う物も食わず苦労し、以後、このアンプで音楽の世界に耽溺しました。

音楽は中南米のリズムやフォルクローレに興味が移り、特にメルセデス・ソーサやルーチャ・レジェスの熱演に聴き入りました。

その後は、真空管アンプの音に目が開かれ、コップをはじくと響く、あの凛とした自然音が石のアンプでは出ない、と気付きました。

一九九五年春、AAFCに入会。

それまで、特に仲間もなく独りでやってきましたが、この会に加わり機器のことや音楽に関して「他人の情報」を掴めるようになりました。すると、逆に自分の状態が分かり、オーディオの方法や目標、あるいは音楽に対する眼が広がり、心にも僅かなゆとりが生まれたようになりました。

オーディオは単に「家で音楽を聴く道具」に非ず、新旧機材のそれ自体の魅力や組合せの妙、あるいはリスナーの意図による音の変化、など、多彩なオーディオの楽しみ方は多面体です。音楽が生活にとけこみ、オーディオのどの一面も楽しく魅了されてやみませぬ。

- ★ マッキンで鳴るハーツフィールド
- ★ 上杉アンプで鳴るボザーク
- ★ オーディオテクネのアンプで鳴るウエスタン

過去、この三つが私の生涯にとつての「最高の音」で、今でも忘れられません。

同じ音を自分の家で鳴らすことはムリなので、その疑似体験は出来ないものかと思案し、何とか近づけてきたのが現在のシステムかも知れません。ウエスタンの音は、特に人の声がリアルに聴こえ、合奏も楽器の一つ一つが自然に聴こえてくるようです。

とてもオーディオの電気増幅再生とは思えません。

白馬のWE体験から、私はオーディオ病が吹っ飛んだような気分になりました。

以来、雑誌の「夢の高級機」を見てもバからしくて何の魅力も感じなくなりました。

「オーディオ音（電気再生音）」から「自然音（非電気音）」に意識を変えたことで、私は過去の自分から脱皮したのです。

現用の機器は理想の音ではありませんが、自然な音で演奏の雰囲気が出ていれば許容範囲だと思っています。

メインの部屋（洋室八畳）には、マッキントッシュの管球アンプでウエスタンのフルレンジを二組鳴らしております。

サブの部屋（六畳のログハウス）では自作三〇〇BでⅢLZを聴いています。

ソフトは最近、二十年ほどはブルーノ・ワルターの自伝や書簡、マラー論などを読みながら、彼のCD全集を聴いています。

クラシクの通俗名曲は、ワルター盤があれば他は不要とさえ感じる今日この頃です。

加瀬 俊二



上の写真は洋室にあるメインの装置



下の写真はサブの装置のあるログハウスの